

ごみの分別について

【審議事項】

1. プラスチックの分別について
2. 「剪定枝」の分別について
3. 事業系ごみの分別について

※当初予定していた「新たな分別区分での収集体制について」は次年度審議会において審議予定。

1.プラスチックの分別について

上尾・伊奈広域ごみ処理基本計画の分別統一案

名称		内容例
可燃ごみ		生ごみ・紙くず・木や枝・布類(汚れて再利用できないもの)・革製品等(プラスチック製容器包装を除く)
不燃ごみ		陶器くず・傘・包丁・割れガラス・鏡等(小型家電を除く)
資源物	飲料缶・スプレー缶	スチール缶・アルミ缶・スプレー缶、カセットボンベ
	ペットボトル	ペットボトル(PETマークのあるもの)
	透明ビン・色付ビン	透明なビン・色のついているビン
	紙類・布類	新聞紙・雑誌・雑がみ・段ボール・布類・古着
	プラスチック製容器包装	ペットボトルのキャップ・ラベル・食品包装用のトレー等(プラマークのあるもの)

令和4年3月 「上尾・伊奈広域ごみ処理基本計画」策定

伊奈町との広域化を見据え、伊奈町で既に行っている「プラスチック製容器包装」を資源化することとした。



令和4年4月 「プラスチック資源循環促進法」施行

- ・「プラスチック製容器包装」に加え、プラスチック製食器やハンガーなど「プラスチック製品」の資源化が努力義務とされた。
- ・「プラスチック製容器包装」と「プラスチック製品」の分別収集・再商品化が、施設整備で活用する「循環型社会形成推進交付金」の交付要件となった。



広域計画策定時は決まっていなかった「プラスチック製品」の取り扱い方針を決める必要がある。

1.プラスチックの分別について

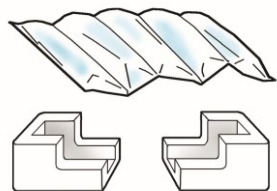
プラスチック製容器包装の例



がついているもの



ペットボトルの
ラベル、キャップ



発砲スチロール

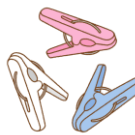


食品トレー



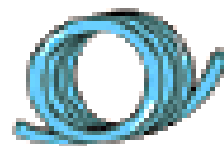
食品の袋

プラスチック製品の例



洗濯ハンガー・洗濯バサミ

バケツ



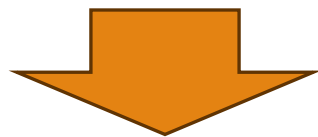
ゴムホース



おもちゃ
(電池不使用なもの)

1.プラスチックの分別について

- 「プラスチック資源循環促進法」の制定により、「プラスチック製品」も資源化することが市町村の努力義務とされた。
- 「循環型社会形成推進交付金」において、「プラスチック製容器包装」と「プラスチック製品」の分別収集・再商品化が交付金の要件となった。



市としては

「プラスチック製品」も「プラスチック製容器包装」同様に分別収集・資源化していく方針を進めたい。

2.「剪定枝」の分別について

埼玉県内の一部自治体では、家庭や事業所、公共施設等から排出される「剪定枝」を、可燃ごみでなく「たい肥」や「木質チップ」に資源化している。本市においても、ごみ減量の取組として、「剪定枝」の資源化を検討する。



たい肥
→農作物栽培の際の土壌改良材として使用される。使用すると、肥料効果のほか、土の保水力や通気性の向上などが見込まれる。

【剪定枝の排出元】

家庭	庭の枝木の剪定
事業所	事業所敷地内の枝木の剪定
公共施設等	公共施設敷地内の枝木の剪定 公園の樹木や街路樹の剪定



木質チップ
→道路・公園などの舗装材や家畜の敷材として利用されているほか、木質バイオマスエネルギーとして活用されている。

2.「剪定枝」の分別について

【埼玉県内自治体の剪定枝資源化状況】

- 埼玉県内では63市町村のうち、18市町で剪定枝の資源化に取り組んでいる。(28%)
- 取り組んでいる団体の多くは、業者に委託しており、自前で処理するには、設備と管理する人員が必要。(2団体が自前で処理)
- 取り組んでいる団体の多くは、資源化後、住民への配布のほか、資源化した物の処分含め委託している。

【県内自治体の剪定枝資源化取組例】

自治体	資源化量	処理	資源物	収益・支出
川越市	297t/年	市施設で処理	土壌改良材 (市民に抽選で配布)	収益:なし 支出:運営費等
加須市	3,797t/年	業者に資源化委託	木質チップ (業者に処分を委託)	収益:なし 支出:委託費等

【本市の剪定枝処理状況】

項目	内容
分別・処理	可燃物(樹木は直径10cm以内、束ねた枝は直径30cm以内、長さ60cm以内のもの)として焼却処理
推定排出量 ※	499t (公共施設等410t、家庭・その他89t)
処理状況	公共施設等から排出される剪定枝の約92%が、委託業者を通じて、資源化業者により資源化されている。

※本市においては、公共施設等から排出された量のみ把握しているため、家庭などから排出される剪定枝の量は、他団体における割合を適用して算出した。

2.「剪定枝」の分別について

- ごみ広域処理施設の整備にあたっては、整備運営費用を下げるのが課題となっているが、剪定枝の資源化を行うには、新たに破砕設備やストックヤードの整備及び運営する人員が必要となり、費用の上昇が見込まれる。
- 実施している他自治体において、資源物(たい肥、木質チップ)は住民への配布や処分を委託しているケースが多く、収益がない、または支出が収益を上回る可能性が高い。
- 本市の公共施設等から排出される剪定枝の9割以上は、すでに委託業者により資源化が行われているため、新施設に資源化用の設備を整備する必要はない。



市としては

公共施設等から排出される剪定枝は、現状のとおり業務委託の中で資源化を行い、施設に搬入されるものは、焼却する。

3.事業系ごみの分別について



家庭系ごみの分別を変更するにあたり、事業系ごみの分別も変更するか検討する。特に、事業系ごみとして受け入れているプラスチック類（個人消費の弁当容器等）の取り扱いを検討する。

【本市の事業系ごみ量の推移】

年度	H25	H26	H27		R3	R4	R5
量(t)	17,649	14,088	7,279		7,090	7,753	7,611

平成26年度から始めた事業系ごみの適性検査により、事業系ごみの搬入量が激減。
令和4年度実績では、事業系一般廃棄物排出量の原単位が94gで県内で最も少ない。

3.事業系ごみの分別について

西貝塚環境センターに搬入できる事業系一般廃棄物

区分	種類
紙類	リサイクルできない紙類 (カーボン紙、複写伝票、感熱紙、防水加工された紙製容器包装、匂いや汚れのついた紙製容器包装・包装紙、使用済みティッシュ等)
生ごみ	厨芥ごみ (卸売市場・飲食店・スーパー・精肉店・小売店・ホテル等から排出されたものに限る) 残飯・茶殻等
プラスチック類	弁当の容器、菓子の包装袋 (従業員の個人消費に限る)
紙おむつ	介護施設・病院・動物病院・ペットショップ等の紙おむつ・猫砂
木・枝・草	刈草・剪定枝・葉 家具販売店の解体した木片

資源物として事業者がリサイクルするもの

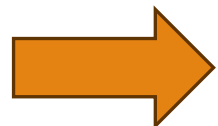
区分	種類(リサイクルするもの)
紙類	リサイクルできる紙類 (段ボール、新聞紙、雑誌、カタログ、コピー用紙、機密文書、雑がみ等)
ペットボトル・ビン・缶	ペットボトル、飲料ビン、飲料缶 (スチール・アルミ)

家庭系ごみのプラスチック類については、今後、市民に分別・資源化をお願いすることになっており、整合を図る必要がある。

3.事業系ごみの分別について

隣接自治体の事業系ごみの受け入れ状況

自治体名	受入物	プラスチックの取り扱い
さいたま市	食品の食べ残し・売れ残り・調理残さ(生ごみ・魚あら・茶殻等)、汚れて再資源化ができない紙・繊維(天然繊維に限る)・木くず等	休憩時に職員の食事等に伴って発生した弁当ごみや菓子のプラスチック容器等について事業者がまとめて捨てる場合には、少量に限り事業系一般廃棄物として処理することが可能。
桶川市	燃やせるごみ(生ごみ・木くず)、古紙類(段ボール・紙パック)	従業員が飲食した際の弁当容器などは事業系一般廃棄物として受け入れている。
伊奈町	生ごみ(食品の食べ残し、売れ残り、調理残さなど) 燃えるごみ(汚れて資源として扱うことができない紙ごみ) 資源物(新聞、雑誌、ダンボール、カタログなど) 剪定枝・刈草(事業所敷地内にある樹木等。)	従業員が飲食した際のペットボトル、プラスチック製容器のみ搬入可能。キャップは取り外し、中身や異物の入っているものは取り除く。
川越市	生ごみ(食品の食べ残し、食品の売れ残り、調理残さ等) 紙くず(資源化できないもの) 繊維くず(汚れた作業着、制服、軍手など) 木くず(木製品、剪定枝、刈草など)	従業員が飲食した際の弁当容器などは産業廃棄物として処理するように指導しており、受け入れていない。



そのほか、同じく隣接自治体である「川島町」「蓮田白岡衛生組合」においても、従業員の飲食等により排出されるプラスチック容器は事業系ごみとして受け入れている。

3.事業系ごみの分別について

- 本市は、一部の自治体で受け入れている資源物も受け入れておらず、事業者にも事業系ごみの適正排出を指導しており、県内市町村で事業系ごみの排出原単位が最も少ない。
- プラスチック類については、現在、従業員の飲食における弁当容器等を受け入れをしているが、今後、家庭系ごみのプラスチック類の分別・資源化を予定しており、事業系ごみについても整合を図る必要がある。
- しかし、隣接自治体においては川越市を除き、従業員の飲食における弁当容器等は事業系ごみとして受け入れている。



市としては

事業系ごみについても資源化を進めるため、弁当容器等もなるべく自社で資源化していただくようお願いする。

新たなごみの分別区分(素案)

【現行のごみの分別区分】

区分		内容例
可燃物		生ごみ、紙くず(資源化できない)、木・枝・葉、布類(汚れのひどいもの)布団・カーペット類、革製品、 プラスチック類
金属・陶器		金属くず、陶器くず、電化製品(粗大ごみサイズ未満)
資源物	飲料缶・スプレー缶	ジュース缶、ビール缶、スプレー缶、カセットボンベ
	ペットボトル	ペットボトルリサイクルマークの付いたもの
	ガラス	ビン類、割れガラス、鏡
	紙類・布類	新聞、雑誌・雑がみ、段ボール、古布、古着

※表に記載のない、粗大ごみ、有害ごみ、小型家電、牛乳パックについては分別・収集の変更はない。

【新たなごみの分別区分(素案)】

区分		内容例
可燃ごみ		生ごみ、紙くず(資源化できない)、木・枝・葉、布類(汚れのひどいもの)布団・カーペット類、革製品
不燃ごみ		金属くず、陶器くず、電化製品(粗大ごみサイズ未満)、 割れガラス、鏡
資源物	飲料缶・スプレー缶	ジュース缶、ビール缶、スプレー缶、カセットボンベ
	ペットボトル	ペットボトルリサイクルマークの付いたもの
	ビン	ビン類
	紙類・布類	新聞、雑誌・雑がみ、段ボール、古布、古着
	プラスチック資源	食品の包装ラベル・トレー、ハンガー、バケツ